

事業者排出量削減報告書

(あて先) 京都府知事	
住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名。記名押印又は署名）
京都府長岡京市神足焼町一番地	松下電器産業株式会社 取締役社長 大坪文雄 <span style="float: right;">印</span>
	電話 06 - 6908 - 1121

京都府地球温暖化対策条例第19条の規定により提出します。

特定事業者の主たる業種	電気機械器具製造業、府内では、主に半導体素子製造業 及び 半導体デバイスの研究開発
-------------	---

該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））
-----------	---

計画期間	平成 18 年 4 月 ~ 平成 20 年 3 月
------	---------------------------

基本方針	全社の環境行動計画G P 2 0 1 0 でCO2排出量原単位の目標を設定、環境・労働安全衛生マネジメントシステムの基本理念を尊重し、エネルギー消費効率の改善を図り温室効果ガス排出量の削減を目指す。（<19年度>中期計画に基づく省エネ3カ年計画を実行）
------	--

推進体制	分社社長を総責任者とする環境・労働安全衛生活動推進体制の中に地球温暖化防止委員会を置き進捗管理する。
------	--

年度ごとの具体的な取組及び措置	年度	設備、対象、工程等	措置内容	
	18~19	工場製造部門	CF3カ年計画で省エネ率7%の継続達成により平成19年度には、総排出量4.9%削減（<19>生産統合、冷凍機更新等で20.3%削減）	
18~19	非製造部門	温室効果ガス（PFC）をCO2換算で38.9%削減。（<19>開発プロセスの早期立上げ、設備集約等により 48.2%削減）		

温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （17）年度 （二酸化炭素換算（t））		目標年度（計画） （19）年度 （二酸化炭素換算（t））		削減率 （計画） （%）	報告年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算（t））		削減率 （実績） （%）
		A 事業所等排出区分	60,453 t	57,479 t	-4.9 %		48,162 t	-20.3 %	
B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%				
C その他排出区分	4,020 t	2,456 t	-38.9 %	2,026 t	-49.6 %				
排出合計	*1 64,473 t	*2 59,935 t	-7.0 %	*4 50,188 t	-22.2 %				

その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）				報告年度（実績）			
		取組量等		（二酸化炭素換算（t））		取組量等		（二酸化炭素換算（t））	
森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	
府内産の木材の利用	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t	
自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（売電量）	kwh	（削減量）	t	（売電量）	kwh	（削減量）	t	
	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	
グリーン電力の購入	（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t	
削減量等合計			*3	t			*5	t	

差引排出量 （排出合計－削減等合計）	基準年度（実績）		目標年度（計画）		削減率（計画）	報告年度（実績）		削減率（実績）
	*1 64,473 t	(*)2-(*)3	59,935 t	-7.0 %		(*)4-(*)5	50,188 t	

特記事項 1. 松下電器グループの全社目標はCO2排出量原単位を2010年度に2000年度比10%削減とし、グローバルに最適生産、エネルギーの消費効率の改善に取り組んでいます。2007年度の実績は、33%削減と目標を達成しています。  
 2. 従来の原単位目標を大きく達成していることから、新たに総量での削減目標を設定。グローバルで生産活動におけるCO2排出量を2010年度に2000年度水準に削減することを目指します。

連絡先	担当部署	
	担当者氏名	
	住所	
	電話番号	
	ファクシミリ番号	

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」の実績については、計画期間中の実績の累計を記入してください。  
 （例）グリーン電力の購入による温室効果ガスの削減実績が18年度5トンで19年度10トンの場合、19年度の報告書の実績については18年度と19年度の実績を累計し15トンと記入  
 5 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比やエネルギー原単位CO2排出量、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定プロセスなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。